

第3学年 思いや意図をもって表現する子供の育成を目指して

板野郡 北島北小学校 人見 稔子

1 はじめに

本校は、児童数338名の中規模校である。2年前まで、例年秋に校内音楽会を開催するなど、児童も保護者も音楽教育に対して熱心である。3年生の児童は、明るく元気で何事にも一生懸命に取り組むことができる。音楽の授業では、感染防止対策として歌唱や器楽の学習が制限されているが、毎回音楽の授業をととても楽しみにしている。3年生になって初めて学習した歌唱曲「友だち」や「春の小川」を楽しそうに歌っている姿が印象的であった。しかし、一生懸命に声を出して歌っているが、どの曲も終始同じように歌うことに、演奏表現の技能について課題を感じた。思いや意図をもって曲の特徴を捉えて歌うことができれば、もっと歌うことが楽しくなり、友達と心をひとつに歌声を響かせる心地よさを味わうことができると考える。本研究では、作詞・作曲者の思いや意図を大切に、かつ自分の思いや意図を演奏に生かせるような音楽学習を目指して進めていきたい。

2 研究内容

- (1) 楽しく音楽活動に取り組むための工夫
- (2) 児童の思いや意図を表現に生かすための授業実践

3 研究の実際

- (1) 学習活動における表現への意識づけの工夫
 - ① リコーダーを使って、曲想にあったタンギングの仕方
 - ② 歌唱において曲想にあった歌い方
 - ③ ドレミ体操で音程感覚や音楽の流れを感じ取る
- (2) 学習活動の工夫
 - ① 鑑賞・器楽教材「笛星人」の実践
 - ② 鑑賞教材 「メヌエット」の実践
 - ③ 歌唱教材 「とどけよう このゆめを」の実践

4 結果の考察

- (1) 歌詞の内容から様子を頭に思い浮かべたり、曲の特徴を捉えたりして歌うようになってきた。
- (2) 児童の表現のよさを価値付けたり、児童の表現について適切にアドバイスしたりするなど、教師の働きかけや発問を工夫することにより、児童の表現が生き生きしてきた。

5 今後の課題

常に思いや意図をもって、歌ったり演奏したりするという意識をもたせ、これからも自分の思いや意図を豊かに表現できる児童の育成を目指して取り組んでいきたい。